

# 進学部門アンケート報告

令和3年度神奈川県立高等学校進路指導協議会  
調査研究部会

新羽高校 能美 悟

本調査について

4年制大学について

短期大学について

指定校推薦について

総合型選抜入試(AO入試)について

大学入学共通テストについて

専門学校について

校内進路ガイダンスについて

日頃感じている問題点

コロナ禍において、進路指導で工夫したこと

本調査で取り上げて欲しいテーマ

本調査について

## 4 本調査について

---

### 調査の目的

本アンケート調査は今年度で32回目を数える。  
これまで現場の生の声を進路指導に生かしたいと行ってきた。  
今年度は神奈川県内の県立高校119校から回答を得て、  
分析を行った。

原則として昨年までの調査項目を踏襲し、経年比較することにより、  
進路データの変化を見つけ、その分析を行った。

## 5 本調査について

---

### 調査の方法

例年は、本協議会の地区幹事からなる調査研究部会の調査員が調査を行っているが、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大防止のための、緊急事態宣言が発令され、臨時休校などもあったために、調査員の会合を十分に開くことができなかった。

そのため、本協議会の常任理事がWEBアンケートで調査を行った。

## 6 本調査について

### アンケート回答数

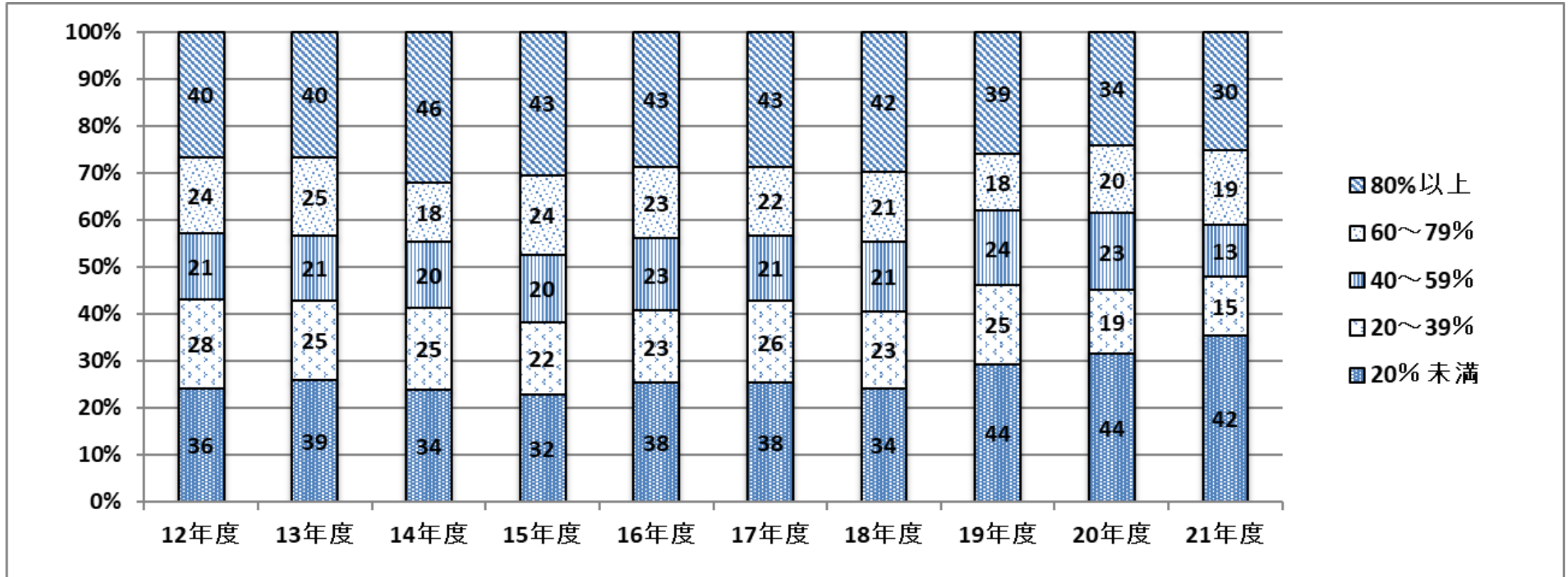
(単位)校

12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
150	150	143	141	150	150	141	150	140	119

一昨年度から、教育現場では、大学入試改革や新型コロナウイルス感染拡大による臨時休業の対応など、例年経験しない突発的な業務で、非常に多忙な状況でしたが、多くの学校がアンケートにご協力していただき、誠にありがとうございました。

四年制大学について

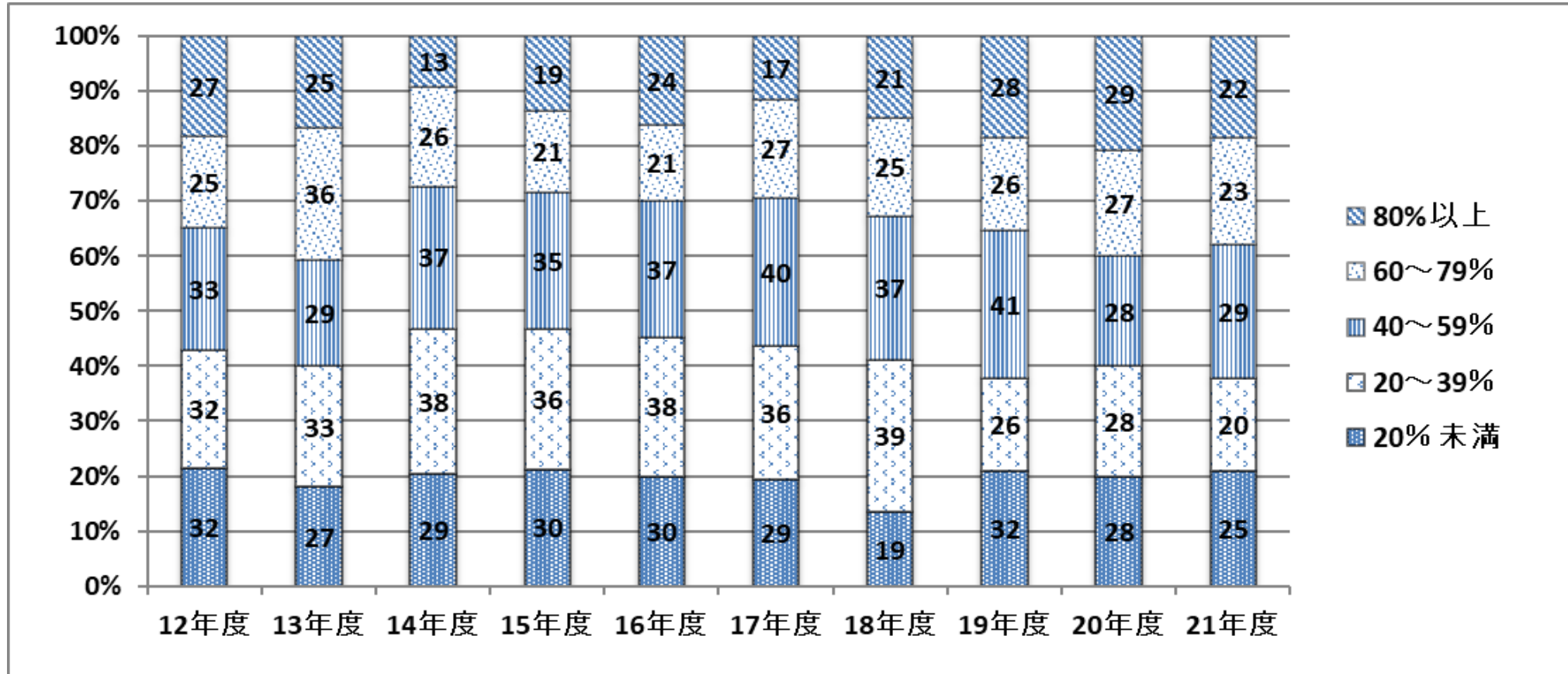
## 四年制大学進学希望者の割合



2017年度から、80%以上の生徒が希望する高校が減ってきている。  
 それに伴って、20%未満の生徒が希望する高校が増えてきている。  
 私立大学入学定員の厳格化の影響で、大学進学を希望する層が専門学校進学に切り替えてきている  
 のではないか？



四年制大学進学希望者のうち、学校推薦型(指定校・公募)入試制度利用者の割合

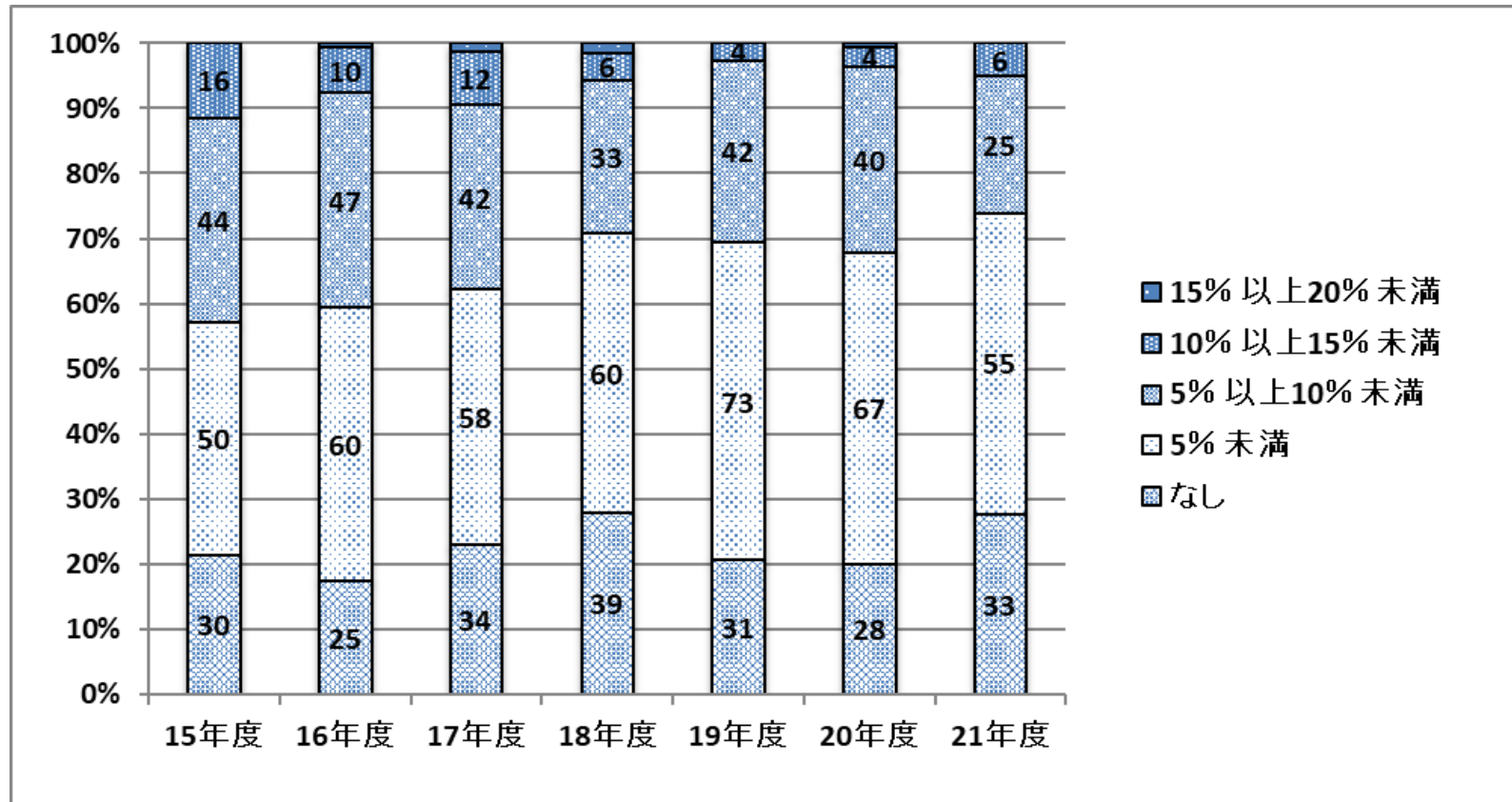


2018年度から、学校推薦型選抜を利用する生徒が80%以上の高校が増えてきている。年内に進路決定を希望する生徒が増えてきていると言える。

短期大学について

# 11 短期大学について

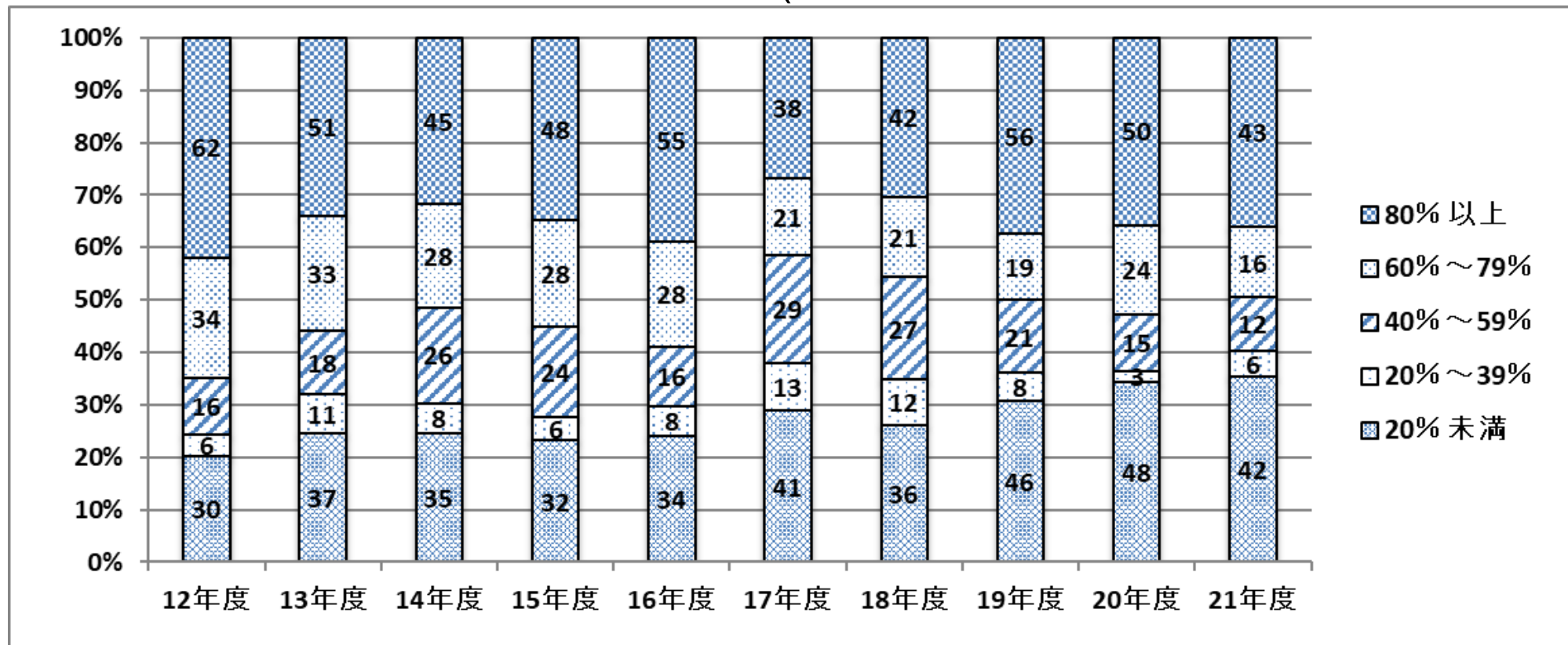
## 短期大学進学希望者の割合



5%未満の生徒が希望する高校が増えてきており、それに伴って、10%以上の生徒が希望する高校が減少してきている。  
各高校において、短期大学を希望する生徒の割合が減ってきていると言える。

## 12 短期大学について

短期大学進学希望者のうち、学校推薦型(指定校・公募)入試制度利用者の割合

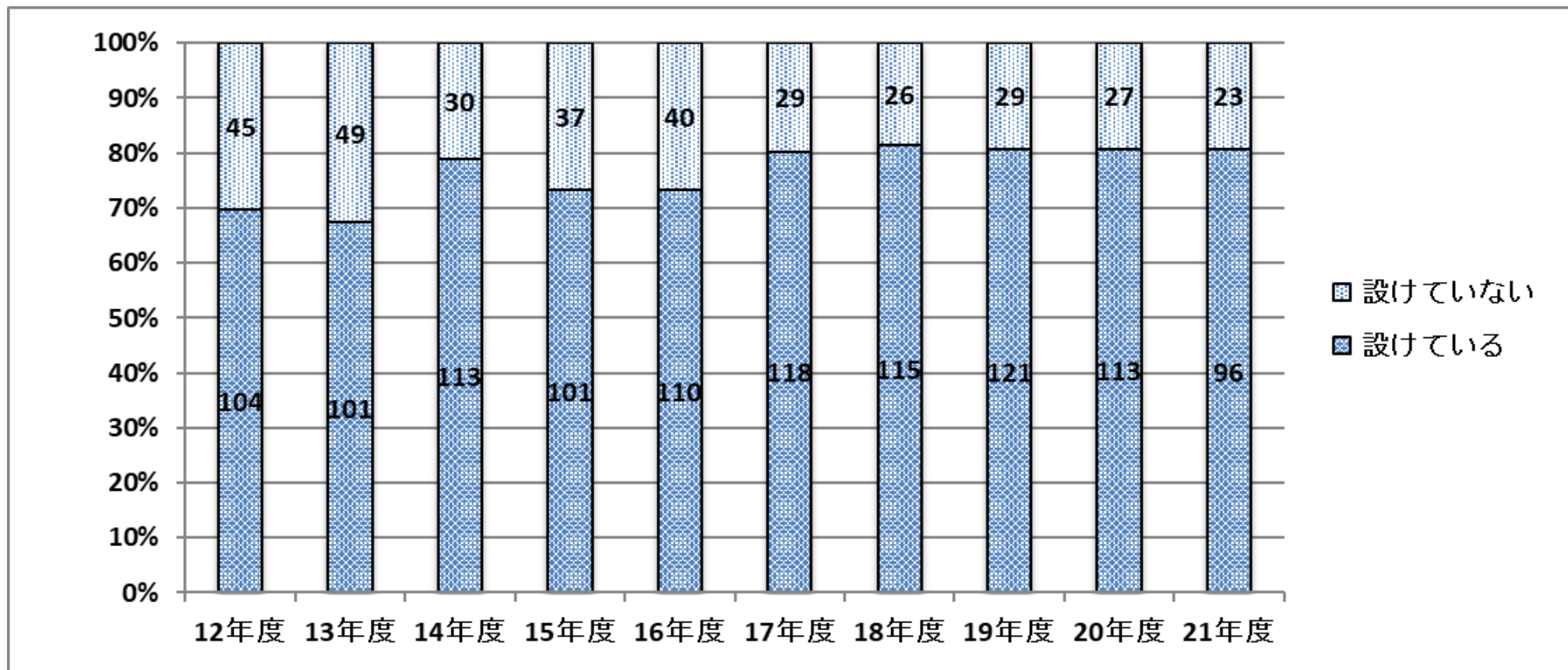


2017年度から20%未満の生徒が利用する高校が増加してきており、それに伴って、40%~59%の生徒が利用する高校が減少してきている。また、80%以上の生徒が利用する高校が増えてきている。私立大学入学定員厳格化が開始されてから、短期大学へ学校推薦型選抜を利用する生徒が増加する高校と減少する高校が増えてきており、二極化しているのではないかと？

指定校推薦について

## 14 指定校推薦について

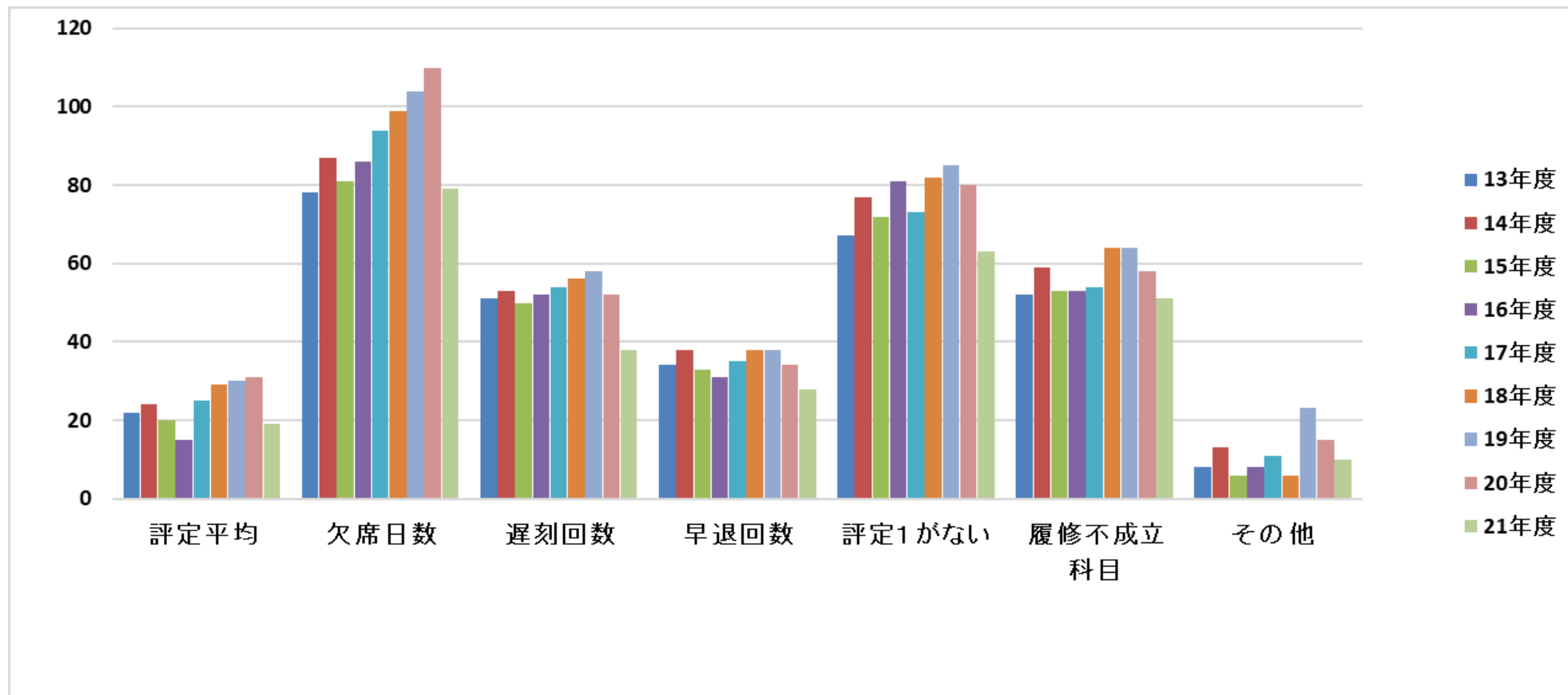
指定校推薦について、大学側からの基準以外に校内基準を設けていますか。



2017年度から、校内基準を設ける高校が増えてきており、現在は、80%以上の高校が校内基準を設けている。

# 15 指定校推薦について

## 大学側からの基準以外に設けている校内基準



2017年度から、校内基準を設ける高校が増えてきているが、その項目としては、欠席日数、遅刻回数、評定1がない、履修不成立が増えていた。ところが2020年度から、各項目で減少傾向があり、これはコロナ禍で「臨時休業」や「校長の認める出席しなくても良い日」で欠席する生徒が増加したため、各高校で欠席日数、遅刻回数、早退回数などの項目を校内基準から削除したのではないかと推察される。

## 16 指定校推薦について

---

大学側からの基準以外に設けている校内基準

＜その他の具体例＞

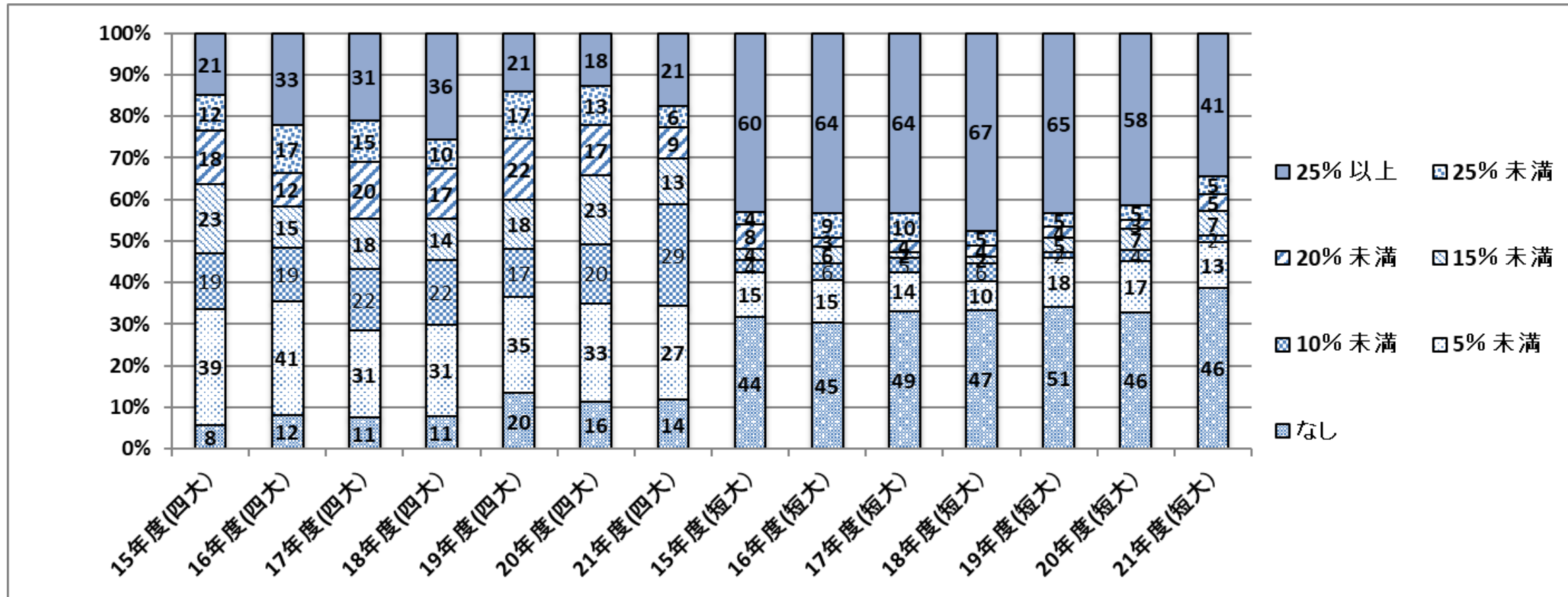
- 指定された校内の説明会等に全て出席し、併願できないこと等をきちんと理解していること
- 三者面談に出席していること
- オープンキャンパスや体験入学に参加すること
- 受験希望校レポートを提出すること
- 学習面だけでなく、生活面も含めて推薦に値する生徒であること
- (3年次に)特別指導を受けていないこと など。



**総合型選抜入試について**

# 18 総合型選抜入試(AO入試)について

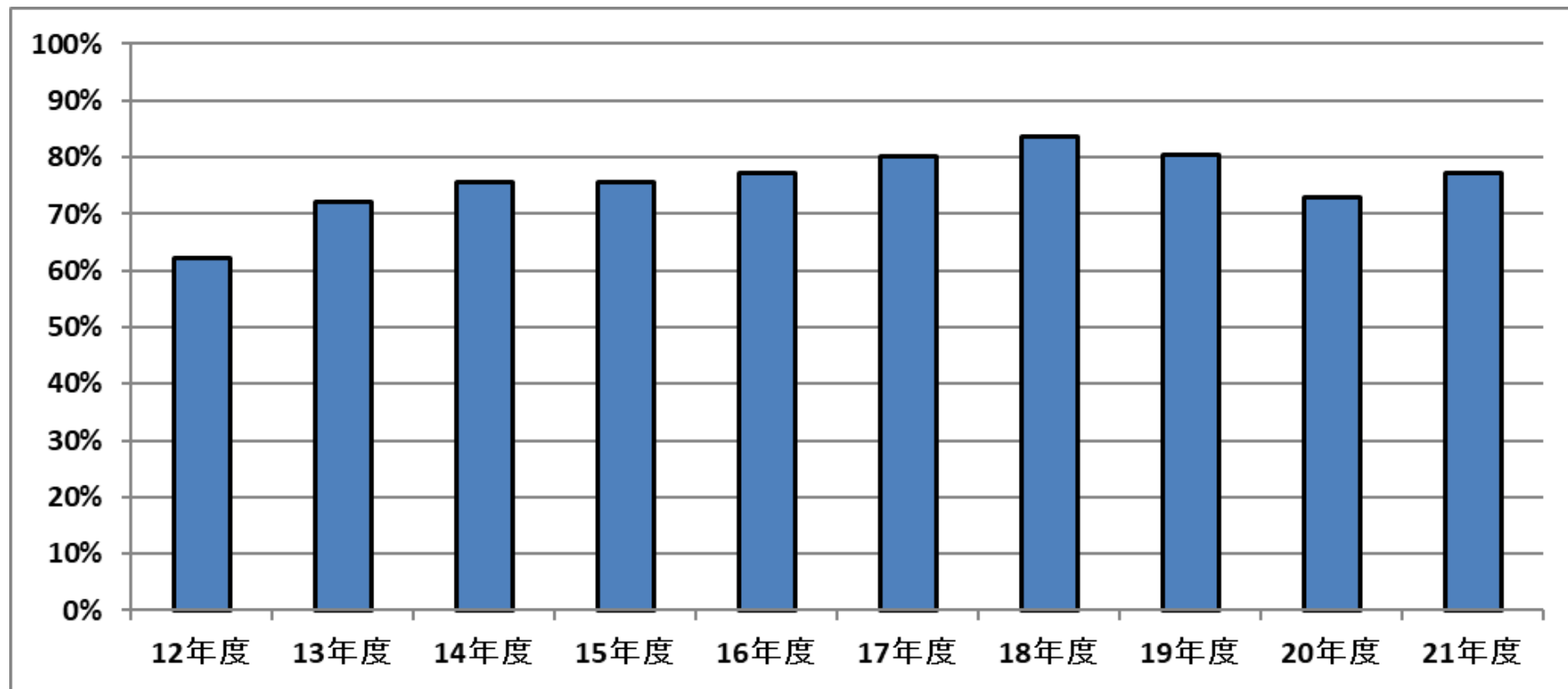
令和3年3月(昨年度)卒業制の四年制大学／短期大学進学者のうち、AO入試を利用して入学した割合



四年制大学進学では、3年前から、総合型選抜を利用した生徒が25%の高校が徐々に増えている。これは、私立大学入学定員厳格化の影響で、一般入試が難化したことによって、受験生が年内に進学先を決めたいという心理が働いているのではないかと推察される。短期大学進学では、0%の高校が増加しており、25%以上の高校が減少している。短期大学進学では、総合型選抜を利用する生徒が減少してきていると言える。

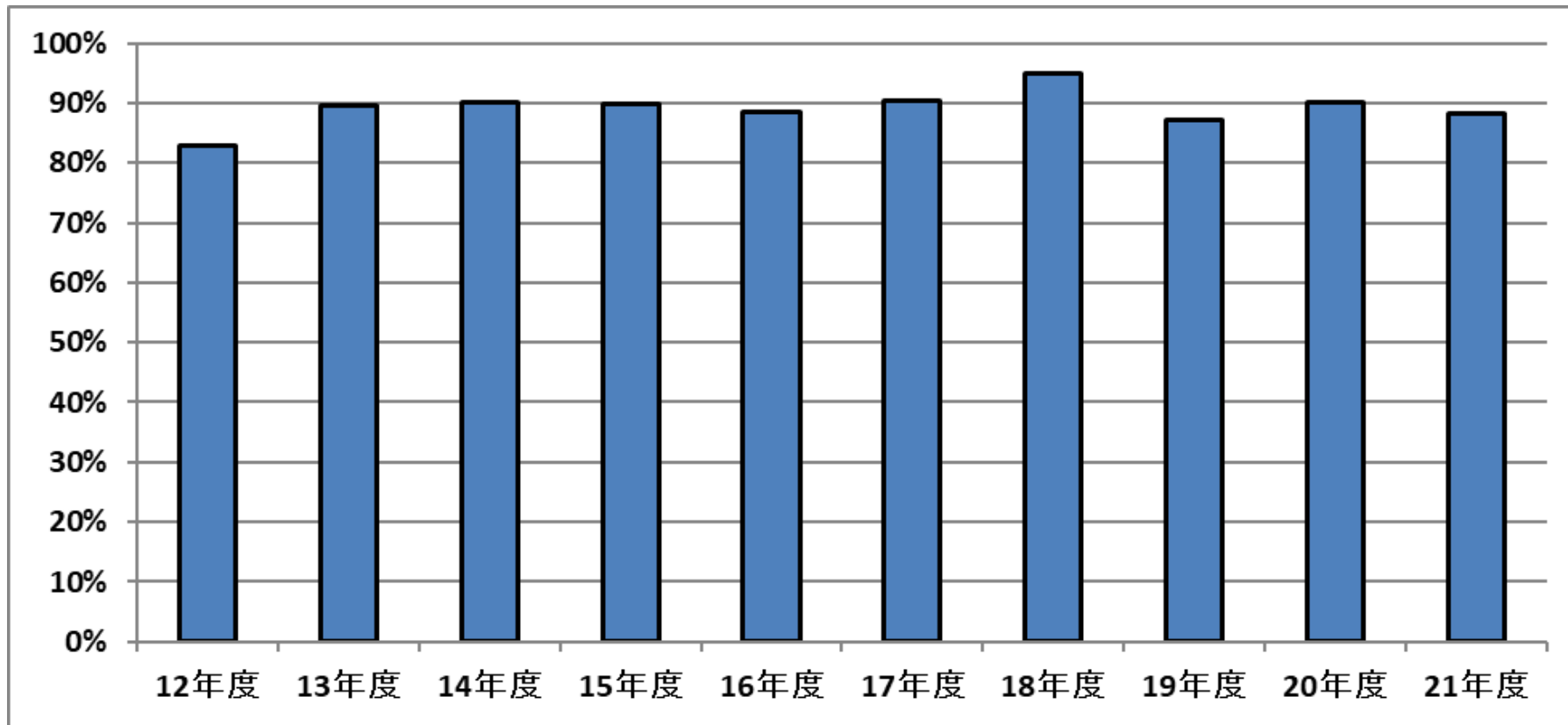
## 19 総合型選抜入試(AO入試)について

総合型選抜入試に関する指導について、生徒に「出願の届け出」をさせて、組織的に把握している学校の割合。



3年前からは、総合型選抜入試の「出願の届け出」をさせる高校数が減少傾向にあったが昨年度は、4ポイント増加している。

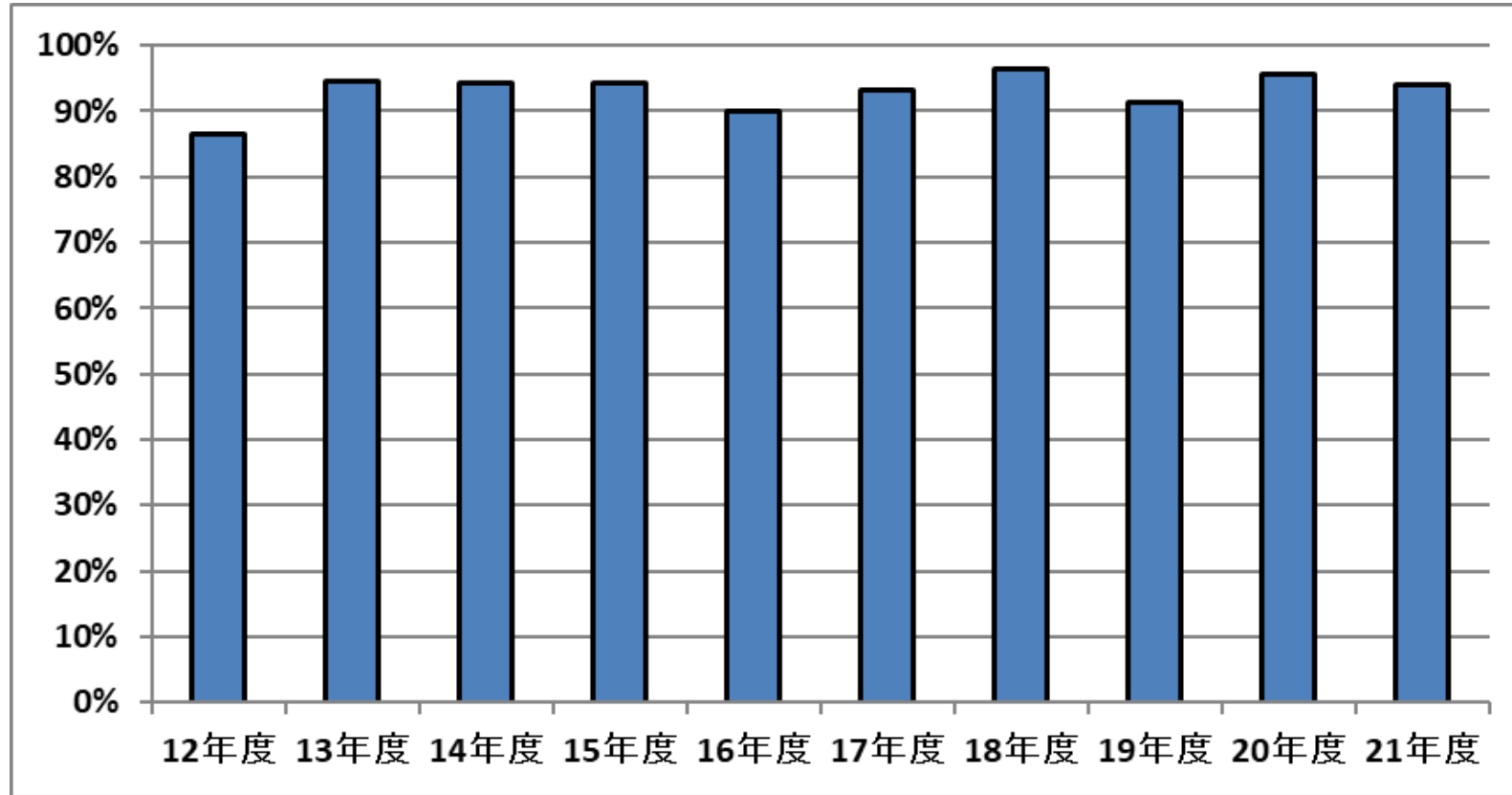
総合型選抜入試に関する指導について、「作文・小論文指導」をしている学校の割合。



90%前後で推移しており、総合型選抜入試でも、手厚く指導されている高校が多いことが分かる。

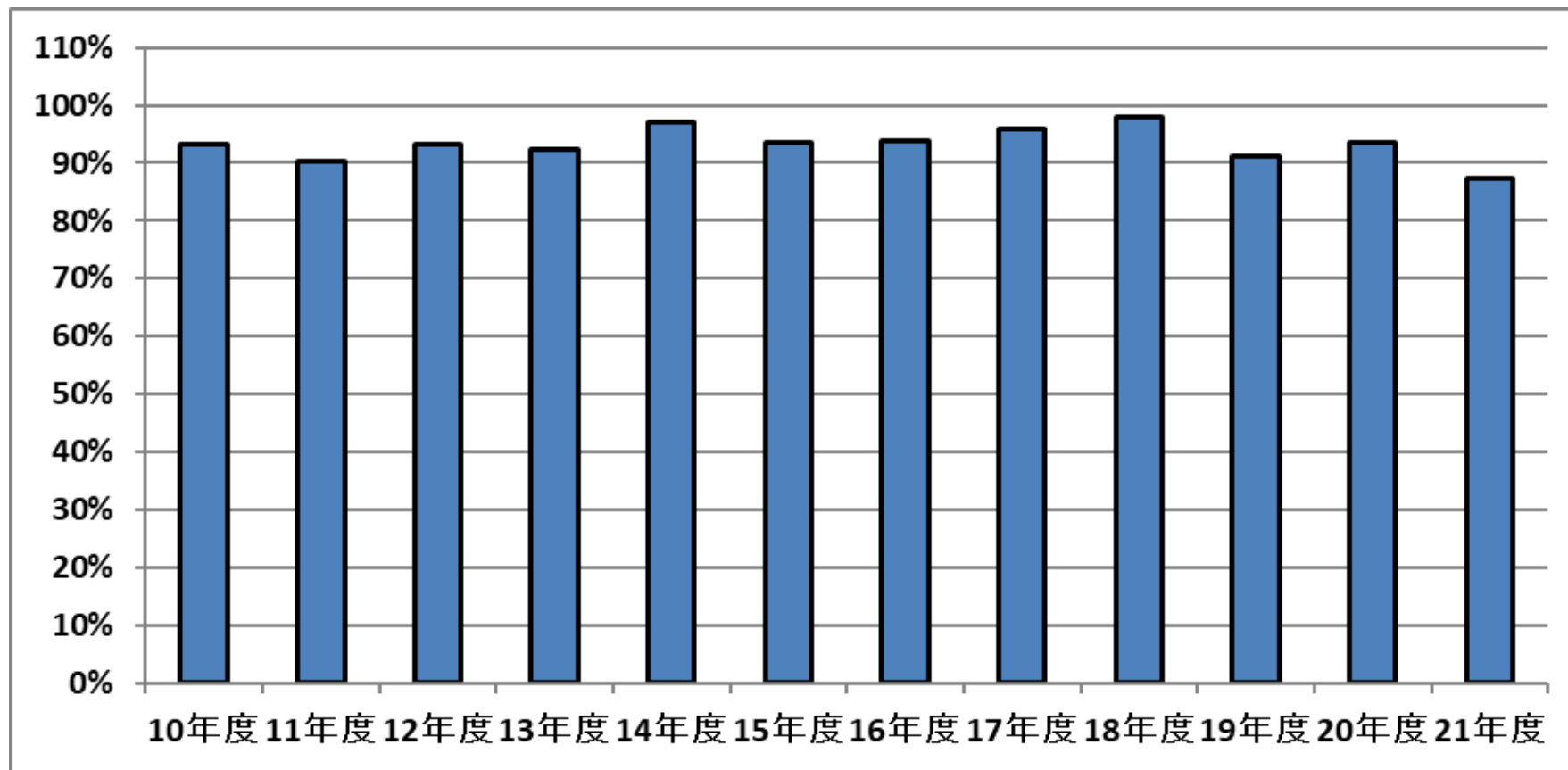
## 21 総合型選抜入試(AO入試)について

総合型選抜入試に関する指導について、「面接指導」をしている学校の割合。



90%以上で推移しており、総合型選抜入試でも、手厚く指導されている高校が多いことが分かる。

総合型選抜入試に関する指導について、生徒に「受験報告書の提出」をさせている学校の割合。



一昨年度までは、90%以上で推移していたが、昨年度は、統計を取り始めて以来初めて、90%を下回った。大学入試改革で、総合型選抜入試を利用する生徒数が増え、コロナ禍で緊急対応に追われるなど、業務量が増えたことにより、「受験報告書の提出」をさせるまで手が回らなくなっているのではないか。

大学入学共通テストについて

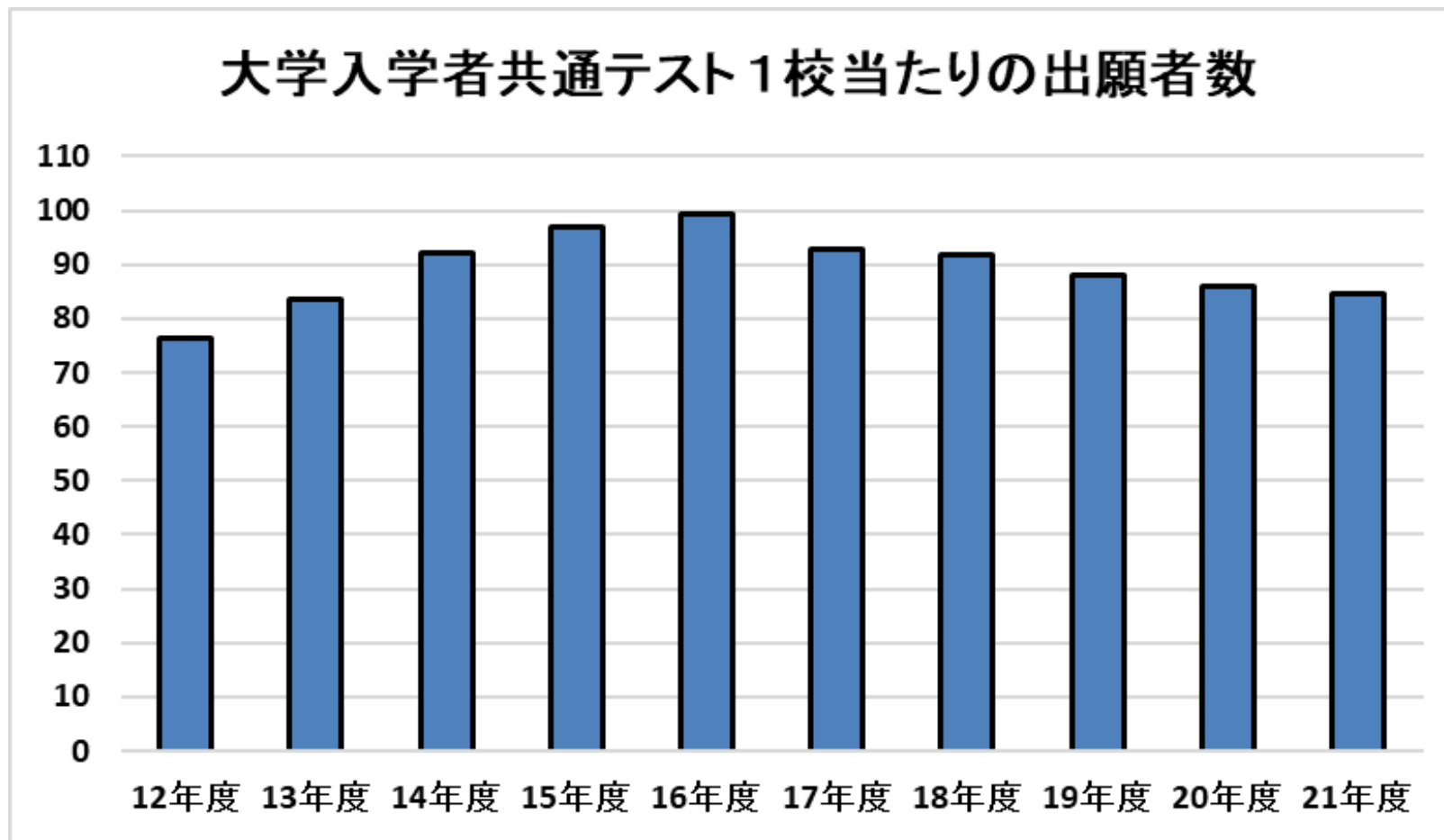
## 24 大学入学共通テスト(センター試験)について

### 大学入学共通テストの出願者数

年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
回答校数	150	150	143	141	150	150	141	150	140	119
出願人数	11,469	12,556	13,183	13,679	14,912	13,913	12,926	13,227	12,036	10,077
1校当たり人数	76	84	92	97	99	93	92	88	86	85

本アンケートへの回答高校数の増減によって、共通テスト出願人数の増減が影響されるので、1校当たりの出願人数を算出した。

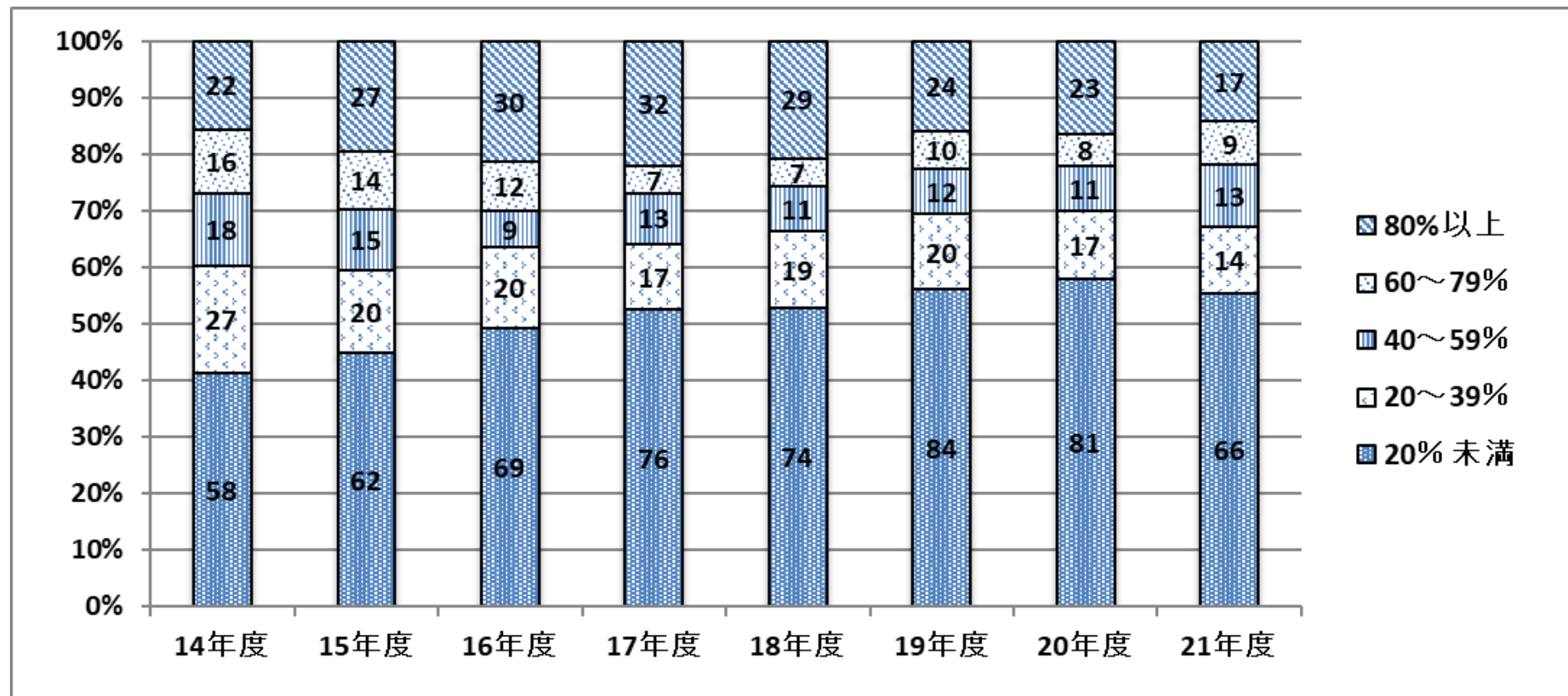




2016年度をピークに、1校当たりの共通テストへの出願者数が減少してきているが、私立大学入学定員の厳格化の影響なのか？少子化に伴う各高校の規模の縮小が原因なのか？は今後の調査で探っていきたい。

## 26 大学入学共通テスト(センター試験)について

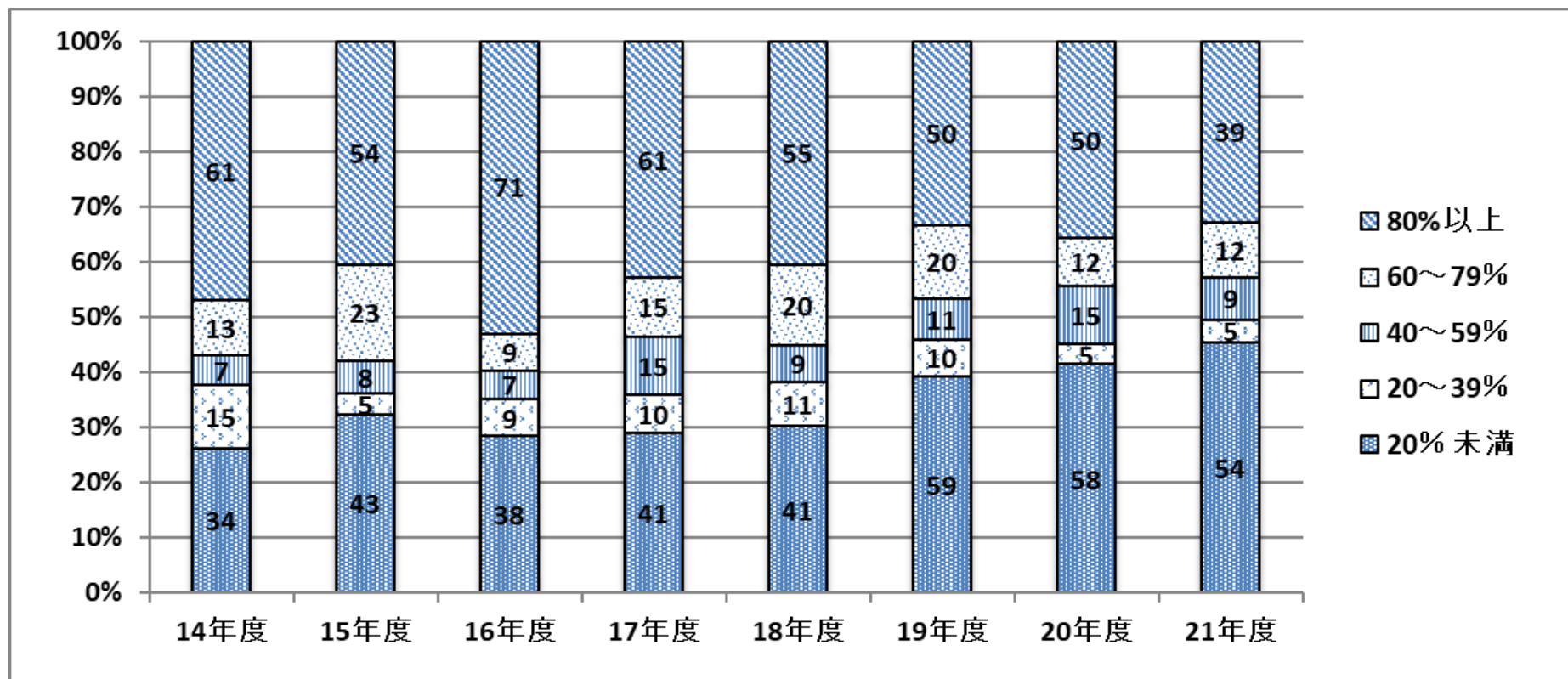
### 卒業予定者における大学入学共通テストの出願者の割合



2017年度から、出願者割合が20%未満の高校が増えてきている。それに伴って、80%以上の高校が減少してきている。  
共通テストへ出願する生徒の割合は、明らかに減少してきている。

## 27 大学入学共通テスト(センター試験)について

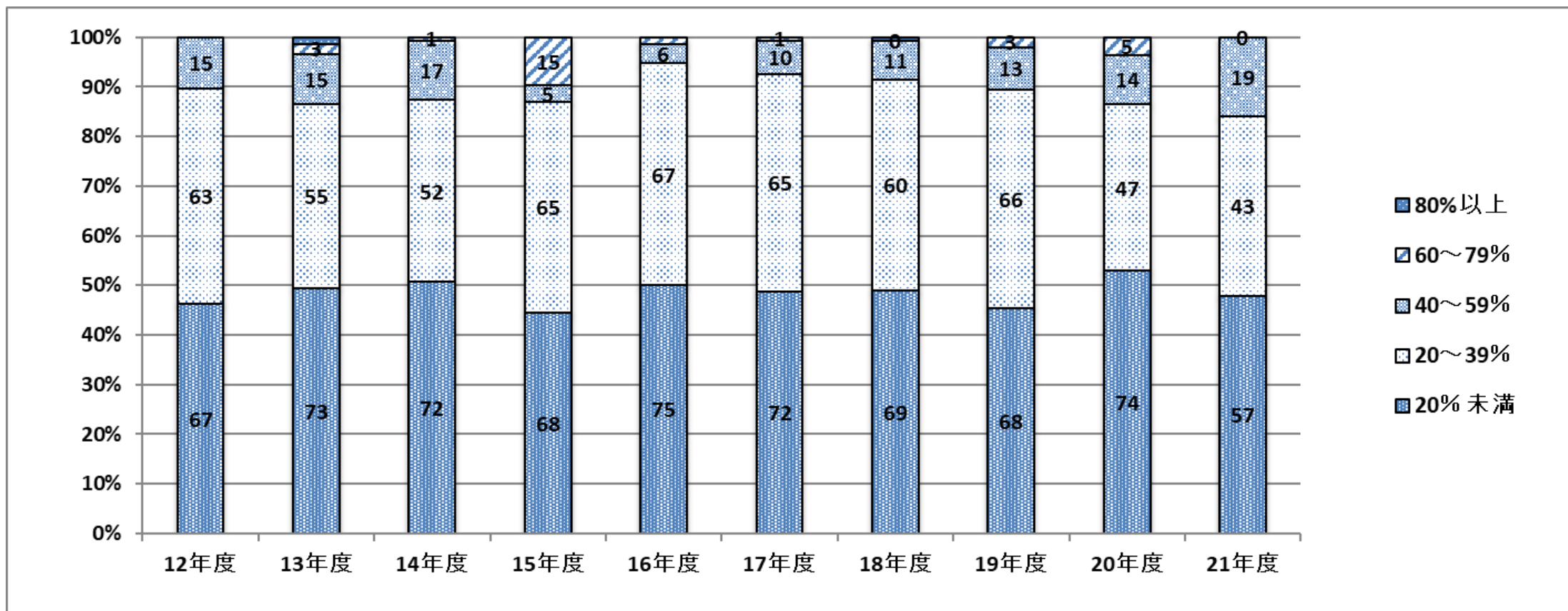
令和3年度(昨年度)入試について、  
センター出願者数における共通テスト受験者の割合



2017年度から、受験者割合が20%未満の高校が増えてきている。それに伴って、80%以上の高校が減少してきている。  
出願したのに受験しない生徒の割合は、増加してきている。

## 28 大学入学共通テスト(センター試験)について

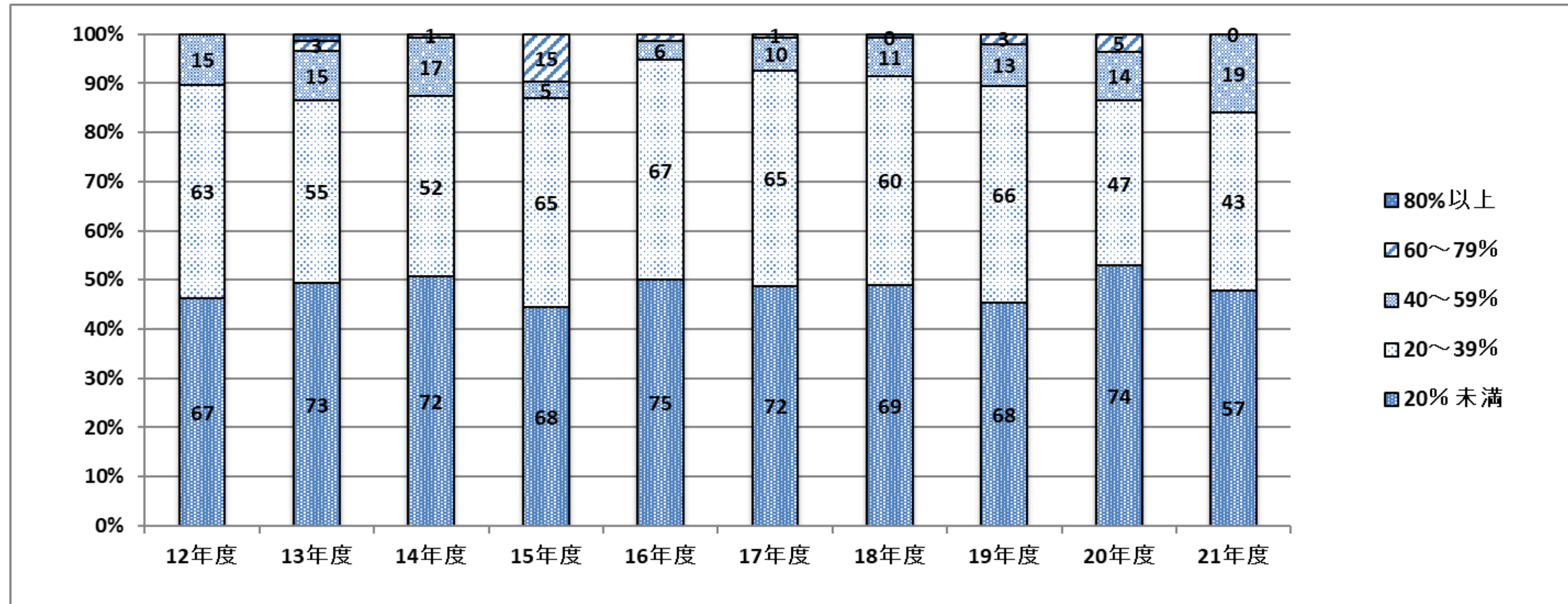
令和3年度(昨年度)入試について、  
私立大学入学者のうち、共通テスト利用入学者の割合



私立大学入試において、共通テストを利用する生徒が減少してきていたが、  
2021年度からは、微増傾向にある。

専門学校について

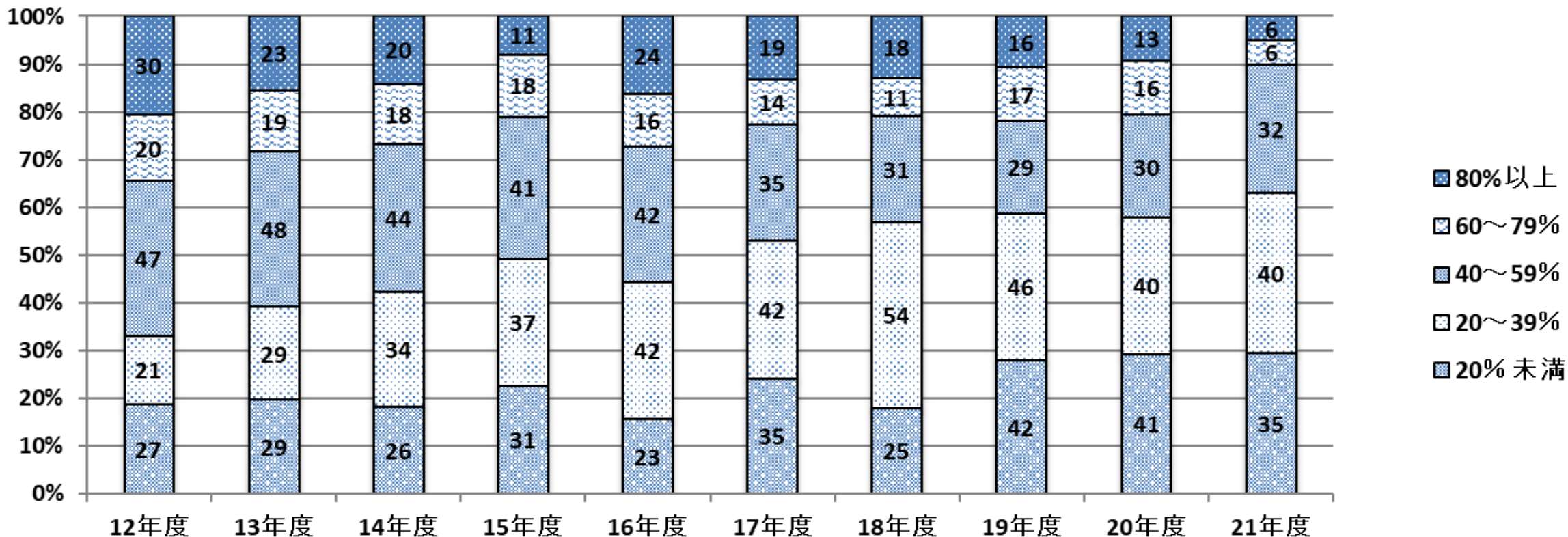
## 専門学校進学希望者の割合



2017年度から、20%~39%の割合の高校が減少し、それに伴い、40%~59%の割合の高校が増えてきている。

# 31 専門学校について

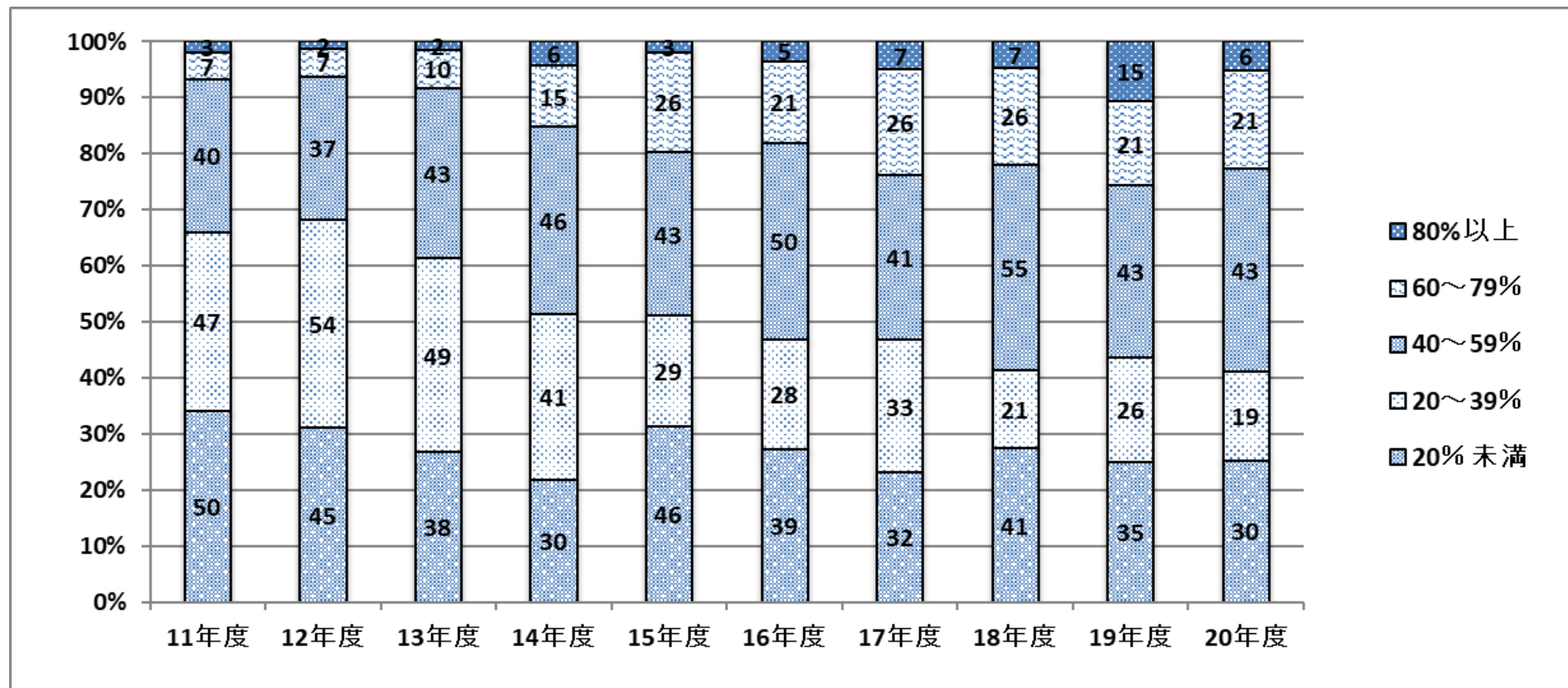
## 専門学校進学希望者のうち、推薦(指定校・公募制)入試制度利用者の割合



20%未満、0%~39%の割合の高校が増えてきている。それに伴い、40%以上の割合の高校が減少してきている。  
専門学校進学では、指定校推薦を利用しない受験が増えてきていると言える。

## 32 専門学校について

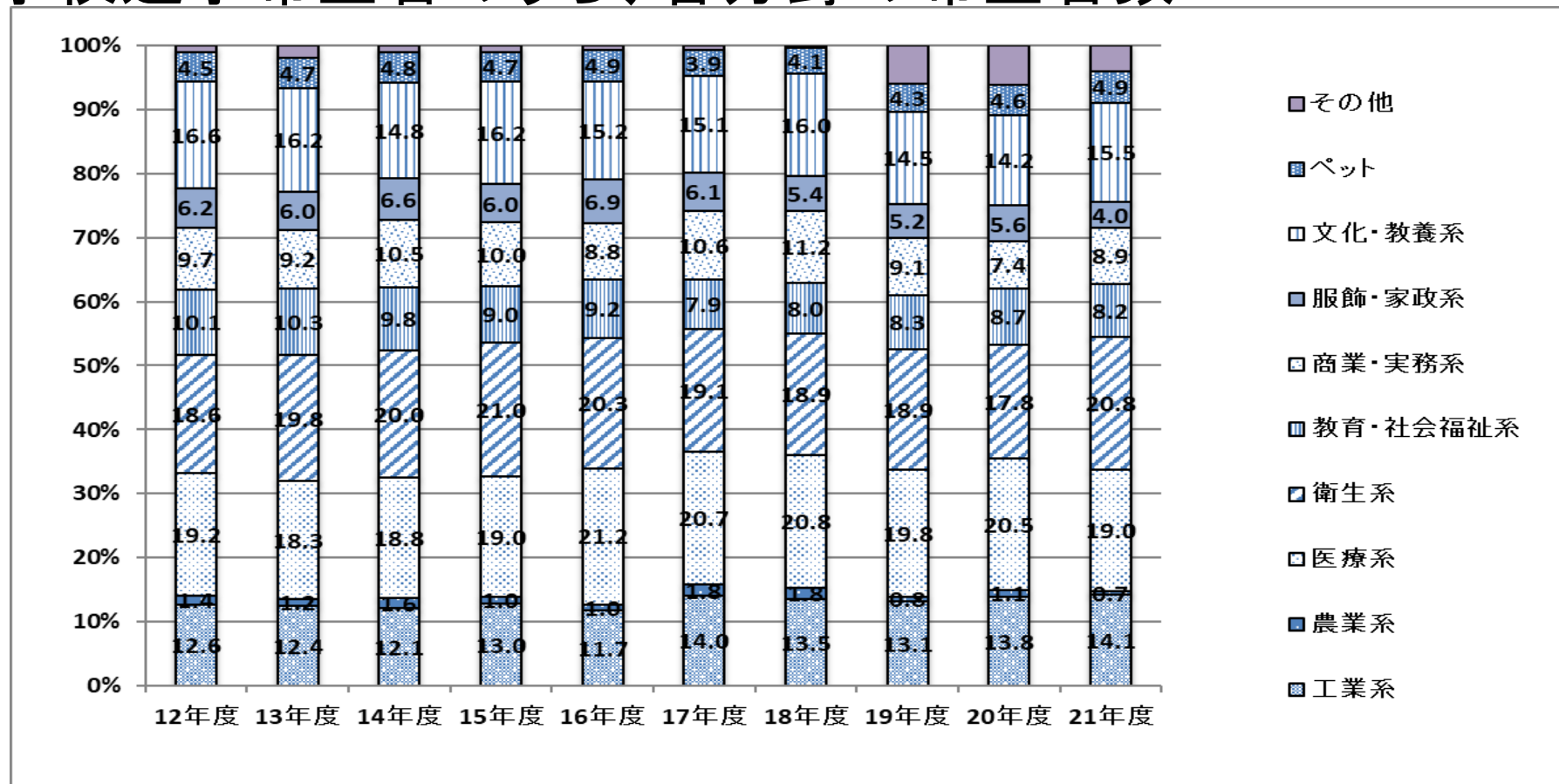
### 専門学校進学希望者のうち、AO入試制度利用者の割合



39%未満の割合の高校が減少してきており、それに伴って、40%以上の割合の高校が増加してきている。特に80%以上の割合の高校の増加が目立つ。指定校推薦よりも早い時期に行われるAO入試で、進路先を決めてしまいたいという生徒の心理が現れている。



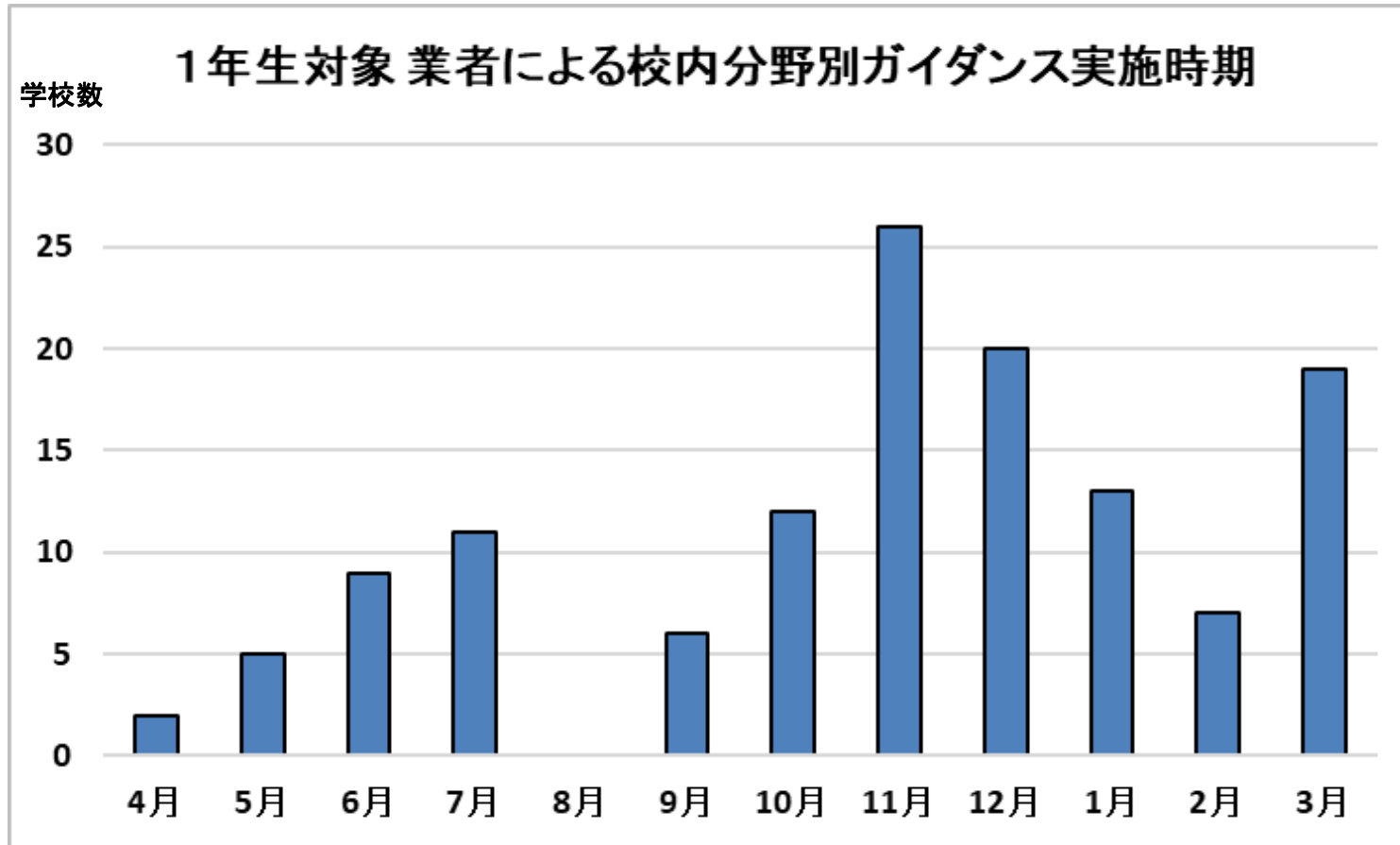
## 専門学校進学希望者のうち、各分野の希望者数



衛生系、商業・実務系、文化・教養系が微減少し、「その他」の項目が増加してきている。その他の内訳は、公務員が多い。コロナ禍で2020年の有効求人倍率は、45年ぶりの下げ幅となり、2021年も首都圏では、1倍を切っている状況である。経済が冷え込んでいることを背景に、安定した公務員を希望する生徒が増えてきている。

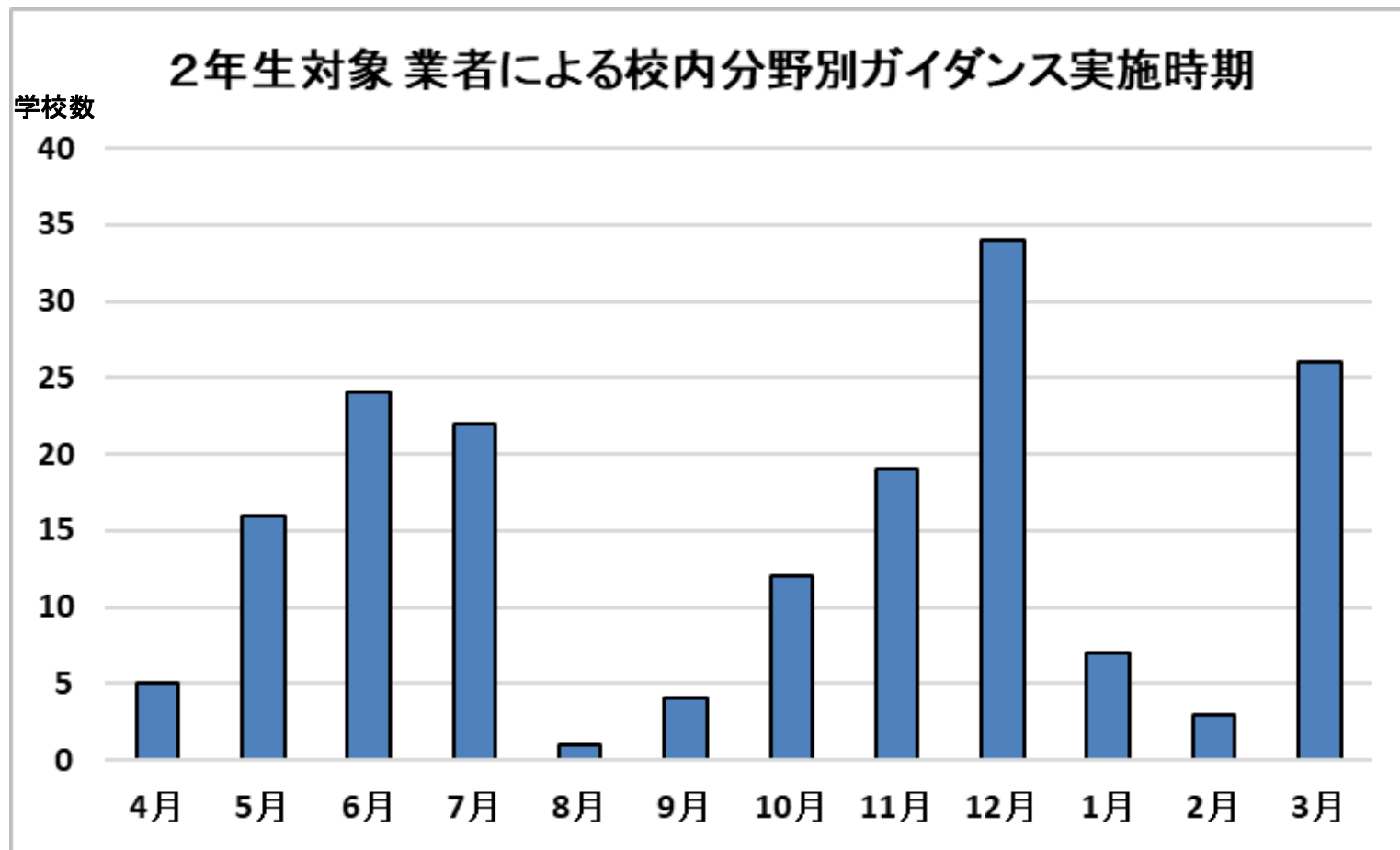
校内進路ガイダンスについて

1年次生に対して、業者による分野別進路説明会を実施している時期



長期休業前の7月・11月～12月・3月にガイダンスを実施している高校が多い。

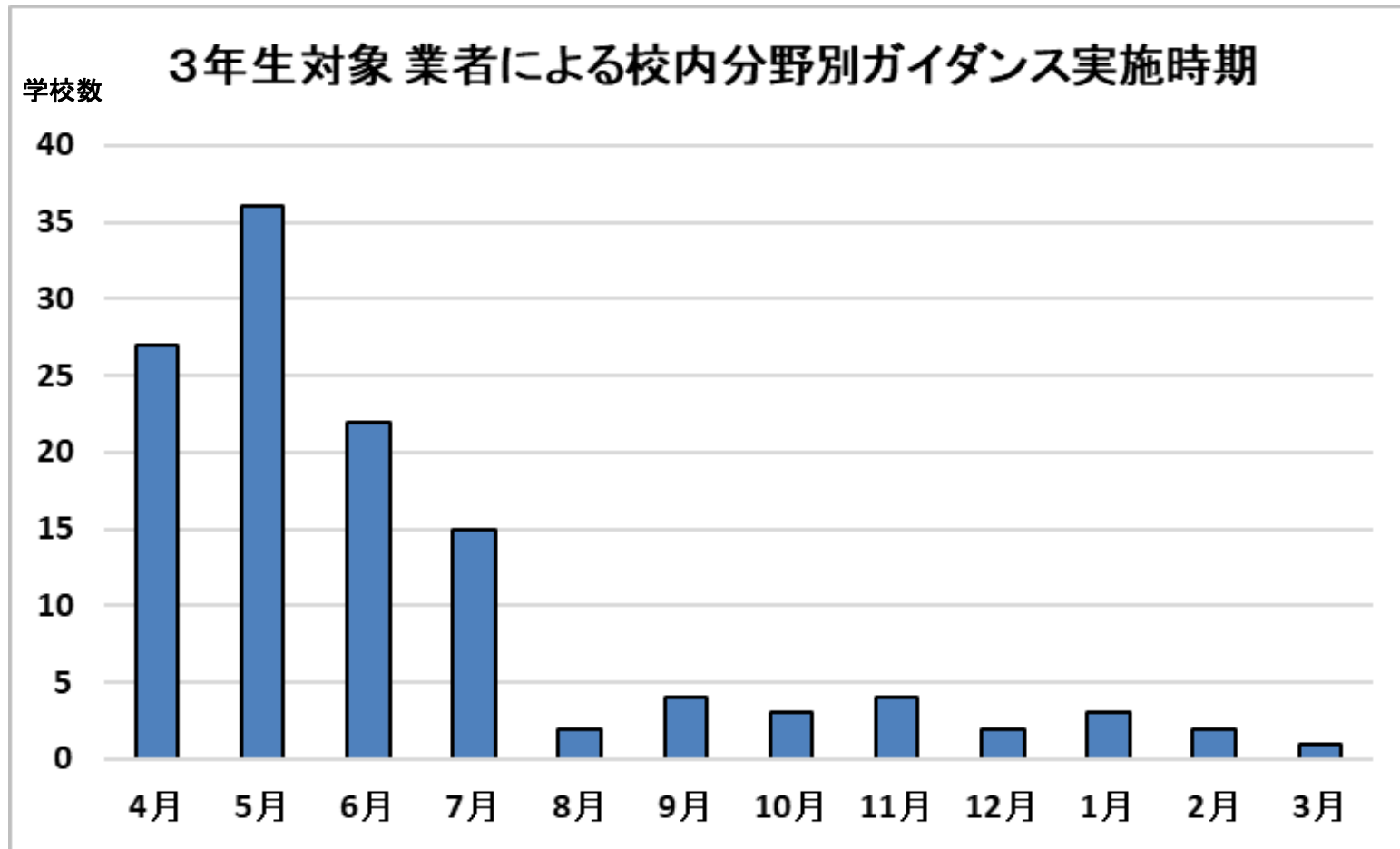
2年次生に対して、業者による分野別進路説明会を実施している時期



長期休業前の7月・11月～12月・3月にガイダンスを実施している高校が多い。  
選択科目を決める時期である6月もガイダンスを実施している高校が多い。

## 37 校内進路ガイダンスについて

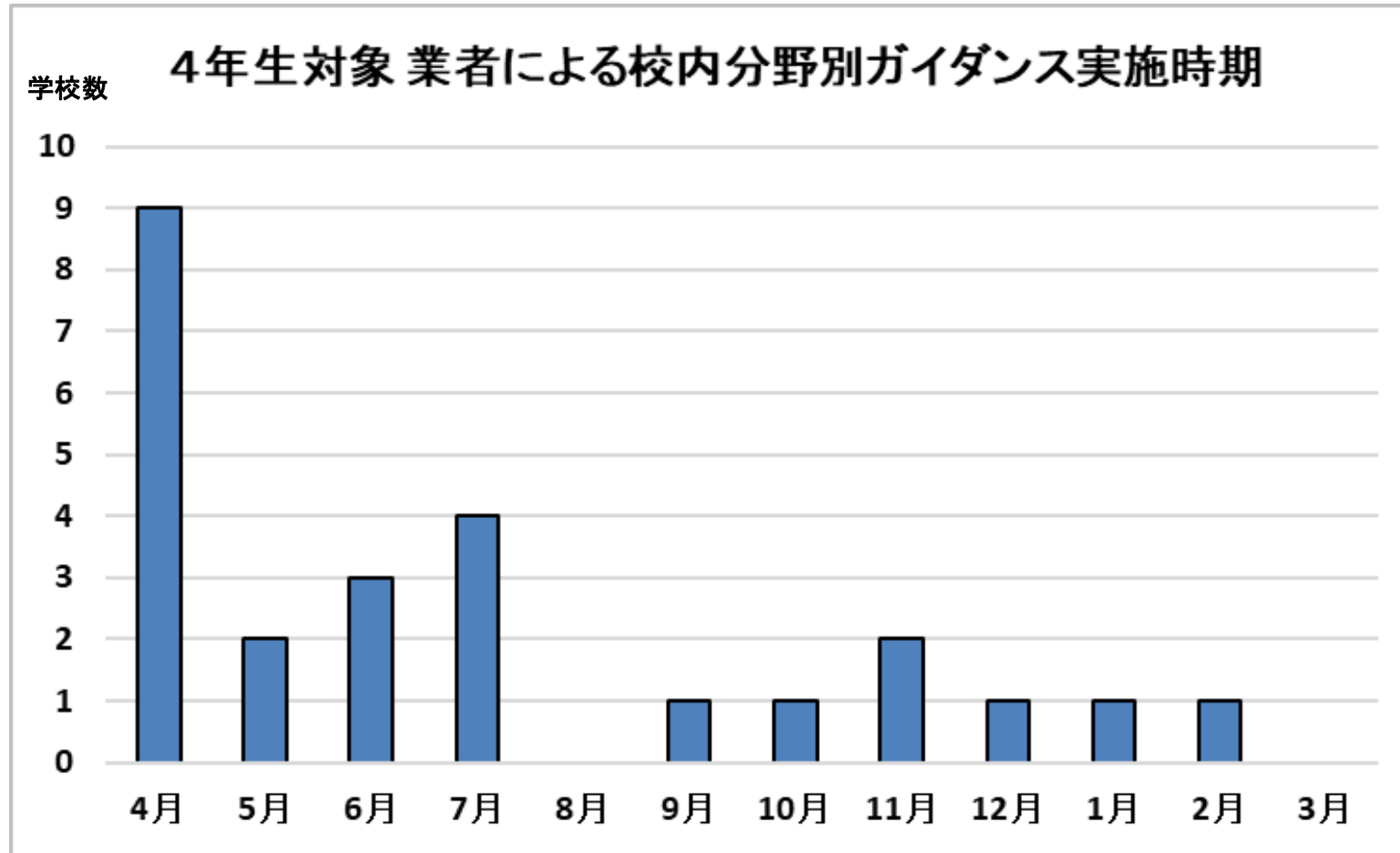
3年次生に対して、業者による分野別進路説明会を実施している時期



6月から総合型選抜が始まるので、5月までにガイダンスを実施する高校が多い。

## 38 校内進路ガイダンスについて

4年次生に対して、業者による分野別進路説明会を実施している時期



3年生と同様、6月から総合型選抜が始まるので、6月までにガイダンスを実施する高校が多い。

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

## <進学関係>

- 進路希望別のガイダンス
- 入試制度・入試方式を説明するガイダンス
- 入試方式別ガイダンス  
(総合型選抜、学校推薦型選抜、共通テスト、一般入試)
- 分野別・大学別・学部学科別説明会  
(医学医学科・看護学ガイダンス、美術系進学ガイダンス、専門学校選び方 など)
- 大学入試動向ガイダンス
- 受験勉強の仕方
- 模擬面接指導、志望理由書、小論文講座
- 面接練習週間を設定し、3年生全員を対象とした面接指導
- 大学の授業に触れるための「大学出張授業」

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

## ＜上級学校訪問, 校外学習＞

- 「大学訪問」、「大学学習会」などの大学との接続企画
- 上級学校見学会
- 大学模擬授業
- キャンパスツアー、進路バスツアー
- 校外研修
- 職業訓練校の校外学習
- 高校独自インターンシップ



学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

## <就職関係>

- 年間を通して就職ガイダンス(求人票の見方, 資料の探し方の説明など)
- ハローワークによる就職ガイダンス  
(面接指導、就職試験対策、就職内定者指導)
- 事業所の説明会
- フリーターと正社員の違い
- 学内で企業説明会
- 「会社訪問」から「履歴書の書き方」までの時系列をレクチャー
- 学校独自のインターンシップ
- 「仕事の学び場」への参加斡旋
- 公務員ガイダンス

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

## <お金に関すること>

- ファイナンシャルプランナーによるお金講座
- 消費者教育講話、年金の話
- 奨学金の話

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

## <職員対象>

- 教員への進路研修会
- 専門学校の状態について、業者を呼び担任向け研修会
- 模擬試験分析会
- 生徒一人ひとりについて「大学出願指導検討会」
- 受験結果報告会

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

## <保護者対象>

- 指定校推薦説明会 …被推薦者になった後で辞退できないことの説明
- 保護者対象進路ガイダンス
- 大学、専門学校別進路ガイダンス
- 教育ローン・予約奨学金説明会
- ファイナンシャルプランナーによるお金講座

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

## ＜卒業生を招いてのガイダンス＞

- 卒業生によるキャリアガイダンス、分野別職業講話
- 教育実習生講話（大学の様子や勉強方法）
- 卒業する3年生による合格者講話、ランチミーティング
- 同窓会と協力して学部学科別講演会  
（本校卒業生を中心に、大学の学問・学際的内容を中心に模擬授業）

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

## ＜外部講師を招いてのガイダンス＞

- ハローワークのスタッフを招いてのガイダンス(マナー講座、面接指導)
- 企業人による進路講演会
- 「コースエキスポ」10社程度の民間企業に来校してもらい、社会人としての心構えや仕事の理解に係る体験型説明会を実施
- 工業科実施の出前授業
- 同窓会と協力して学部学科別講演会  
(本校卒業生を中心に、大学の学問・学際的内容を中心に模擬授業)
- キャリアアドバイザーとして、予備校OBの方に来ていただき、情報を得ている

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

## <職業人インタビュー>

- 職業人を複数人招いて、多展開で職業人インタビュー
- 市町村産業振興課後援の地元職業人インタビュー
- 2、3年次「課題研究」において、上級学校や地域の方への体験授業や取材による調査・研究

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

## <その他>

- 進路と科目選択ガイダンス
- 進路通信の発行
- 放課後進路セミナー
- 各年次の4月に進路目標・進路スケジュールについてのガイダンス
- 看護、医療、職業技術訓練、公務員系の学校についてのガイダンス
- 全職員による一斉面接指導
- 海外進学に向けた説明会
- 生徒と保護者対象に、それぞれ学年別に進路ガイダンス動画を配信
- 総合的な探究の時間で、「学部・学科研究」をテーマとして探究活動を行う
- 2、3年次「課題研究」において、「上級学校や地域の方への体験授業や取材による調査・研究」
- 進路指導の情報提供を目的に校内限定のWEBサイトを作成



日頃感じている問題点

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

## <大学入試改革／定員厳格化>

- 入試の多様化による進路指導の負担が年々大きくなっていること。
- 選抜試験の種類が分かりづらい。
- 出願時期が重なったりして、出願指導が煩雑になっている。
- 総合型選抜入試で、専願か併願かの大学側の態度の曖昧さ。
- 総合型選抜の受験者が増え、進路決定が早くなっている。
- 自身の学力と志望大学がマッチしないことが多く、大学入試の仕組みも分からない生徒もいるため、個々人に対して丁寧に説明、個別指導が必要である。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

## <コロナ禍の影響>

- コロナ禍でオープンキャンパスが中止になり、学校に行って見るができない。
- オープンキャンパスが予約制になり、予約が取れなく、見学できない生徒が多くいた。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

<WEB出願>

- WEB出願の期間が短すぎる。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

### ＜大学・短大・専門学校の選抜方法の名称の違い／不統一な書式＞

- 指定校推薦に関して、大学側の条件、基準をなぜ統一した書式で出せないのか疑問。
- 指定校制推薦の受験要項の読み取りに、大変な労力を使う。  
もう少しわかりやすく書かれていると助かる。
- 推薦入試における出願要件が、受験要項のいろいろな所に記載されている場合があり、要件を読み落としそうになることがある。
- 出願書類(例 推薦書の様式)が分かりにくく、事故に繋がる心配がある。
- 大学ごとに入試の選抜方法が複雑で、それぞれ大学側に問い合わせをせざるを得ないことがある。もう少し工夫できないものか。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

### <情報過多>

- 数年来、紙媒体に限らず、電子媒体も含めて情報過多になっており、処理しきれない。
- 情報がネットと紙の両方でくる。一本化してほしい。
- 適切な情報を生徒・保護者に提供するために、大量な情報を取捨選択する必要がある。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

### <業務過多>

- 指定校に関する書類作成に多くの時間を取られとても負担感がある。
- 入試の多様化による進路指導の負担が年々大きくなること。
- 総合型選抜の受験指導について、大学・学部・学科ごと全て内容が異なるので、完全に個別指導となり、教員への負担が大きい。
- 総合型選抜、学校推薦型選抜を利用して受験する生徒が9割近くいるため、面接指導や志望理由書添削での一人あたりの教員の負担が大きい。
- 総合型選抜や学校推薦型選抜の提出課題の指導について担任などの負担が大きくなっている。
- 進路に関する情報を一斉に生徒に伝える学年集会などが時間が無くてできない。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

### <業務過多>

- 業務多忙のため、一人ひとりの生徒の指導に割ける時間が短くなってしまうこと。
- 個々の生徒と対応する時間がなかなか取れない。
- 学校の要項などの必要な情報を生徒に伝えるのに、教員の支援を多く要すること。
- 担任やグループへの負担が大きく、休日も対応している教員が見られる。



進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

### <経済的な問題>

- 経済的な理由で進学を断念せざるを得ない生徒が毎年一定数いる。
- 学費の支払いの問題。奨学金もやみくもに勧められない。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

## ＜生徒の生活習慣・基礎学力・学業への態度・進路意識＞

- 生徒の意識不足、当事者意識の低さ、計画性の甘さ、楽観的過ぎる。
- 生徒の意識の差が大きいため、一斉指導が困難。
- 基礎学力の不足、進学先に対する情報収集力の低さ。
- 進路決定後の学習意欲の低下について指導の工夫が必要になる。
- 志望理由書などの書類作成を順調に進めることができない生徒が増えている。
- 教員が進行管理をしないと書類作成や発送が期限内に完了できない。  
願書の記入でも間違える。
- 募集要項が理解できない生徒が少なくない。
- 生徒のコミュニケーション能力、及び、文章力の育成が課題。
- そもそも進学に力をいれていない。  
(学力・経済的理由含めて、進学が難しい生徒が多い)
- 進学活動と毎日の学習活動とが意識の中でつながらない生徒が多くいる。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

### <保護者に関して>

- 保護者の中には、子どもの進路に関して無関心である方もいる。
- 卒業学年における生徒と保護者の意見の不一致、準備不足。
- 早く・楽に合格を決めたいという希望が、保護者、生徒の双方からあり、学校のルールを曲げて推薦等を要求されることがある。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

### < 受験指導／勉強指導 >

- 指定校推薦に関する指導の難しさ。
- 塾や予備校の受験指導と学校の指導が違う場合がある。
- 生徒・保護者が塾・予備校の言いなりで盲信してしまう点。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

## <生徒の安易な進路選択>

- 学校研究、学部学科研究が甘く、本人保護者とも大学でさえ就職率や合格のしやすさで選んでいる。
- 大学進学目的や目標がないままに、ただ就職するのを先送りにするための進学と考えている。
- 早く・楽に合格を決めたいという希望が、保護者、生徒の双方からあり、学校のルールを曲げて推薦等を要求されることがある。
- 自分のこの成績だったら、どこの大学に入れるかだけで進学先を決めているので、学部学科の決め方も曖昧なところがあり、進学してからのモチベーションに影響しなければいいが、大変心配である。
- 学科試験のない専門学校へ進学する生徒が増えてきている。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

### <校内の進路指導体制・内規>

- 総合型選抜や学校推薦型選抜(公募)にも校内基準を設けるべきかの議論
- 専願、併願の扱い。
- 9月初旬の文化祭と指定校推薦の日程が重なること。
- 総合型選抜と学校推薦型選抜の日程が重なっており、生徒のスケジュール組みが担任レベルで異なる。
- 教員間の新入試や受験動向に対する意識や指導のスキルの差。
- 職員が日々変化している進路情報を完全に理解していない。
- 大学進学であれば、1年次から始めるのが良いと思うが、進学担当が少なかったり、継続して担当することが無かったりで、1年次から継続して進学指導することが難しい。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

### <その他>

- 総合型選抜の受験について学校がどこまで把握すべきか。
- 専門学校による早期囲い込みのような募集。
- 生徒に1・2年次からの取り組みをあまり促せていないこと。
- 自己理解を深める支援について難しさを感じる。また保護者と話せる機会が少なく、もっとやり取りができたらいと思う。
- 過去に生徒が作成した志望理由書や面接の体験談などを県内で共有できるようなシステムが欲しい。
- 4年次生への進路指導の難しさ。

コロナ禍において  
進路指導で工夫したこと



## 65 コロナ禍において、進路指導で工夫したこと

コロナ禍において、各学校で進路指導について、工夫したことを教えてください。

### <ICTの利用> Google Classroom や Meet の活用

- Classroom で生徒への連絡、情報伝達、進路通信の配信を行った。
- 進路説明会、講演会、ガイダンス、面接指導をオンラインで実施した。
- 三者面談、オンライン模擬面接を Meet で行った。
- Classroomを活用した志望理由書のオンライン添削を行った。
- オンラインでの事業所見学、企業見学会を実施した。
- 進路説明についてはオンラインを活用し、各教室で行い、メモが取りやすい環境は集団で体育館実施よりも効果があると考えます。

## 66 コロナ禍において、進路指導で工夫したこと

---

コロナ禍において、各学校で進路指導について、工夫したことを教えてください。

### <オンラインに対する対応>

- オンライン面接に対応できるよう対象者はオンライン環境で面接練習を行なった。
- リモート対策として、ヘッドセットや進路用PCの活用を行った。
- 受験の面接時において、オンライン面接を課せられた場合は、学校の教室で行った。

## 67 コロナ禍において、進路指導で工夫したこと

コロナ禍において、各学校で進路指導について、工夫したことを教えてください。

### <ICTを利用しない指導>

- 熱意を伝えたいので、敢えてリモートではなく、分散させて対面でガイダンスを行った。
- オンライン分散登校期間は共通テストの説明の時期でもあり、個別に登校させて対面で指導することが多かった。
- 一斉休校の際に個別面接指導を全教員で分担して行った。
- 休校中も生徒と密に連絡を取り、本人の希望と必要があれば登校させ指導した。
- 進路に関することでオンラインで対応できない部分はいつも通り対面で指導を実施した。
- 分散登校時に個別指導を行った。

## 68 コロナ禍において、進路指導で工夫したこと

コロナ禍において、各学校で進路指導について、工夫したことを教えてください。

### ＜新型コロナウイルス感染対策＞

- Google classroomをフル活用し、対面指導を極力避けた。
- 説明会等を各HR教室で実施し、密になるのを避けた。
- 体育館での一斉指導からクラスごと教室での指導へ変えた。
- 講演からDVD視聴へ変えた。
- 大教室を使用し、椅子の間隔をあけ、ソーシャルディスタンスをとった。
- 午前部と午後部でガイダンスの時間を分け生徒が長時間同じ空間にいる時間を減らした。
- 進路行事の組み替えを行い、人数の制限を行い、分散させた。
- ガイダンスの講師等の健康状態の確認。
- 模擬試験は校内ではなく、自宅で受験させた。

## 69 コロナ禍において、進路指導で工夫したこと

---

コロナ禍において、各学校で進路指導について、工夫したことを教えてください。

### <その他>

- 日程を変更しての進路行事を実施した。
- 就職試験の日程配慮願い通知の送付。
- 入学実績のある医療系専門学校や保育短大に協力をお願いし、看護体験・保育体験の受け入れ先を確保した。
- 上級学校訪問を、例年は大学にも協力して頂いているが、今年度は訪問ができなかったため、専門学校のみで受け入れて頂いた。

本調査で取り上げて  
欲しいテーマ

## 71 本調査で取り上げて欲しいテーマ

本アンケートで取り上げて欲しい課題等がありましたらお書きください。

### <キャリアパスポート>

- キャリアパスポートの運用・活用法・活用状況など。

### <推薦入試について>

- 学校推薦型(指定校推薦や公募推薦の専願)と他の併願可の学校の同時出願を認めているかどうか。
- 推薦基準(校内の)についての各校の状況を知りたいです。本校では総合型入試も1校に限って受験させていますが、他校の動向はいかがでしょうか。
- 同程度の学力の学校の学校推薦型選抜(指定校推薦)の、推薦希望の出し方。(校内選考回数と1回の希望は何校か等について)

アンケートへのご協力をありがとうございました。